【第７回】　日本語文の構造　１）ヴォイス　続き　　第三版　2022 年 10 月　TIFA　土曜教室

＊使役文

ヴォイスというのは動詞を誰の立場から表現するのかということですが、例えば

＜生徒の立場の文＞　生徒が勉強する。

＜先生の立場の文＞　先生が生徒に勉強させる。（自動詞の使役文）

このように誰かに何かをさせる、というのもヴォイスの範疇で説明されます。

使役文は、他動詞文でもあり得ます。「母親が子供に頭を洗わせる。」

＊授受表現

「あげもらい動詞」という言い方をしますが、「あげる」「もらう」「くれる」「やる」という動詞も、動詞を誰の立場から表現するかによって言い方が異なって来るので、ヴォイスの範疇になります。　これらの動詞は内と外、目上、目下の使い分けをするという日本人のメンタリティーともからんで来るので外国人には分かりにくいポイントとなります。

（言語は文化を反映する！）

A「物のやり取り」

「あげる」、「くれる」、「やる」は英単語では give ですが、**「物のやり取り」**において

X　学生が私に花をあげました。　→　くれました。（**自分が**もらう場合は「くれる」）

（「あげる」は私から誰かへ与える場合が多い）

X　太郎君が私の妹に花をあげました。→　くれました。

（**身内**がもらう場合は「くれる」）

「もらう」は英単語では receive ですが、

○　私はカリナさんに花をもらいました。

X　リンさんは私に花をもらいました。→　私はリンさんに花をあげました。

（自分が与える場合は「あげる」）

B「好意のやり取り」

「て形」＋動詞　で「好意のやり取り」という特殊な範疇のヴォイス表現があります。「恩恵の授受」とも言います。～てあげる、～てもらう、～てくれる、～てやる　の４つです。

（「て」の後の動詞を補助動詞と言います）

○　私はリンさんに本を貸し<u>て</u>あげました。

○　カリナさんが妹に花を送っ<u>て</u>くれました。　（**身内**がもらう場合は「くれる」）

△　トムが私に英語を教えた。　→　教え<u>て</u>くれました。

外国人は事実だけをスパッというので こういう表現になるが間違いではない	日本人的には恩恵（好意）を受けていると という気持ちが入ったこういう表現になる

X　トムが私に英語を教え<u>て</u>あげました。　→　教え<u>て</u>くれました。

このように誰から誰へ与えるのか、目上なのか目下なのか、物なのか好意なのかなどで用語が異なってくるので使い分けが難しく、整理して教えないと学習者が混乱します。

「やる」も授受動詞ですが、これは初級クラス後半（みんなの日本語Ⅱ）で採り上げます。
「差し上げる」「下さる」も授受動詞ですがこれらは敬語表現の中で扱います。
いろいろなパターンで使えるようになるまで辛抱強く練習する必要があります。

２）テンス　（時制）

テンスというのは、その文章がいつの事態を表現しているかということです。
大まかに言うと過去、現在、未来の表現の仕方です。

通常の場合の単文は発話時を基準として事態がそれより前か、同時か、後かという判断をします。

＊　太郎は東京へ行った。　　（発話時より前―――た形で過去を表す）
＊　太郎はあそこにいる。　　（発話時と同時―――辞書形で現在を表す）
＊　太郎は東京に行く。　　（発話時より後―――辞書形で未来を表す）

発話時を基準とする場合を「**絶対テンス**」と言います。

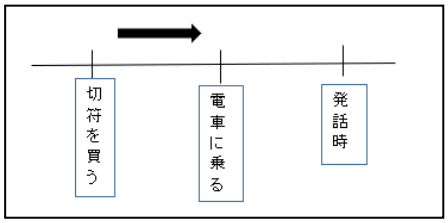
日本語の文では、絶対テンスだけでは説明できないような場合があります。
（事柄が順番に起こっている場合の前後関係の表現）

X　電車に乗った前に切符を買った。（これは英語 I bought a ticket before I got on a train.の直訳）
○ 電車に乗る前に切符を買った。（これが日本語の正しい表現）

「電車に乗る」は一般に未来を示します。
「切符を買った」は過去を示しており矛盾しているようにみえます。
しかし日本語の場合、**従文の時制は主文の時制を基準にするのがルールです。**
ですから、主文・「切符を買った」時点から見ると「電車に乗る」のは未来にあたるので「乗る前」となります。

「事柄が順番に起こっている場合の、従文の時制は主文の時制を基準にする。」
これを「**相対テンス**」と言います。この点が英語的な発想と異なるので学習者には分かりにくい点です。「相対テンス」という言葉は教える必要はありませんが、質問があったり学習者が間違えたらこのルールの説明が必要になります。

時間軸を書いて可視化すると分かり易いです。



以　上